



歯学部を支える方々

歯学部にも異動して

歯学部事務室長 近藤 正一

平成31年4月1日に脳研究所事務室長から歯学部事務室長に異動してきました近藤正一と申します。平成4年11月に公害等調整委員会事務局（現在は総務省の外局）より新潟大学に出向してから、本学での勤務も早28年となりました。財務部、医歯学総合病院（管理運営部門）、脳研究所事務室と学生・院生の皆さんに直接対応しない部署での勤務が長く、直接対応する部署は人社系（2年間）と今回で2度目となります。歯学部異動3日目の4月3日に本学の入学式に「初めて」同席させてもらい、その流れから後援会総会・保護者懇談会の受付、新入生懇談会の司会進行へと目新しいことを経験し、その後も、学年暦が進む中で新鮮な感覚を持ちつつ業務・行事等に対応してきました。

異動して1年半ほど経過しますが、歯学部の大きな特徴として感じていることのひとつが「学部全体の一体感」です。学部長のリーダーシップの下、ミッションの再定義で挙げた4つの強み・特色に向け、先生方全体が教育・研究・地域歯科医療にと熱心に取り組まれています。また、事務に

対しても協力的なご対応を賜り感謝いたします。事務室としてもこの一体感の中で先生方との良好な環境を継続しつつ事務的支援を行っていきたいと思います。

二つ目が、「国際交流」に力を入れていることです。部局間交流協定等の締結、海外での医療支援事業・国際シンポジウムの実施、短期海外派遣プログラムによる学生の派遣、海外大学院生等の受け入れ等々、年間を通して何かしら行われ、事務的支援も多種多様に先生方と調整のうえ対応させていただいております。令和2年2月のインドネシアで開催した国際シンポジウムでは事務室からの事務支援者3名の一員として同行し、英語はできませんが参加された先生方から色々ご配慮いただき良い経験をさせていただきました。残念ながら同年3月以降新型コロナウイルス感染症対策のため海外渡航などの人の行き来ができず、リモートでの交流等へと活動が縮小していますが、この状況が早く改善され、以前のように活発な人の交流が再開されよう願っています。

一あしずつ

歯学部事務室総務係 五十嵐 未来

歯学部総務係の五十嵐と申します。

令和元年10月に入職・歯学部配属となり、1年と少しが経ちました。

伝票処理や契約、出張の手続き（現在は新型コロナウイルス感染症の影響で殆ど無くなってしまいましたが…）など、主に会計業務を担当しております。

高校生の頃から教育に関する仕事に就きたいと考えていたため、間接的に教育や研究のサポートができることを嬉しく思っています。

私は宮沢賢治が好きで、昨年、新型コロナウイルス感染症の流行で戸惑いや不安を感じたときには、『銀河鉄道の夜』の中の「なにがしあわせか

わからないです。ほんとうにどんなつらいことでもそれがたどしいみちを進む中のできごとなら峠の上りも下りもみんなほんとうの幸福に近づく一あしずつですから。」という言葉思い出して、元気を出していました。

今年は昨年よりも沢山の「一あしずつ」を重ね、先輩職員のように先生方から頼っていただける職員になれるよう、精進したいと思います。

先生方のお力になれるよう知識を増やしてまいりますので、会計面でご不明な点がございましたら、お気軽にお声掛けください。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



コロナ禍で写真を撮る機会がなく、昨年2月に随行させていただいたシンポジウムの写真です